CQ2-16（4） HPV ワクチン接種の方法は？

Answer

1. 接種前に問診，検温及び診察によって接種の適否を確認する.（A）
2. 接種前に十分に振り混ぜる．凍結したワクチンは使用しない.（A）
3. 0，1，6 カ月後に上腕の三角筋部に筋肉内接種する.（B）
4. 生ワクチンの接種を受けた者では 27 日以上，不活化ワクチンを受けた者では 6 日以上の間隔をおいて接種する.（A）
5. 接種後は失神・アナフィラキシーショックやけいれん等の重篤な有害事象が現れることがあるので，接種後は 30 分の待機指示を行う.（A）

▷解　説

実際の接種に際しては以下の点に注意して行う必要がある[1].

1．問診や検温，診察によって接種不適当者や接種要注意者に該当しないことを確認し接種の適否を慎重に判断した後（CQ2-16（2）参照），ワクチン接種の必要性，有用性，副反応などについて十分な説明を行い（CQ2-16（3）参照），被接種者（18 歳未満では保護者）の同意を得た上で接種する.

2．サーバリックス®は保管時には白色の沈殿物と無職の上澄み液に分離しているが，これは品質の変化によるものではない．接種前によく振り混ぜて使用する．本ワクチンは 2～8℃ で保管する．誤って凍結させたものは品質が変化しているおそれがあるので，使用しない.

3．サーバリックス®は 1 回 0.5mL を 0，1，6 カ月後に 3 回，上腕の三角筋部に筋肉内注射する（ガーダシルの場合は 0，2，6 カ月後に 3 回接種する）．皮下接種はしない．3 回の接種において，同一接種部位に反復して接種することは避ける．接種期間を変更せざるをえない場合には，初回と 2 回目の接種間隔は少なくとも 4 週間は空けることとし，2 回目と 3 回目の接種間隔は少なくとも 16 週間は空けるようにする．接種スケジュールが長期中断された場合でも，最初から再開せずに残りの接種を追加する.

4．他のワクチン製剤との接種間隔は，生ワクチン（麻疹，風疹，水痘など）では接種後 27 日以上，他の不活化ワクチン（インフルエンザ，A 型肝炎，B 型肝炎など）では接種後 6 日以上の間隔をおいて接種する．同時接種は，医師が特に必要と認めた場合に限り行うことができるが，同じ部位には接種しない．HPV ワクチン接種後に他のワクチン製剤を接種する場合は 6 日以上の間隔をおいて接種する.

5．失神（血管迷走神経性反応または血管拡張性失神）を起こす場合がある．失神に伴う受傷を防止するため立位での接種は避け，接種後は少なくとも 15 分間患者の経過を観察する．アナフィラキシーショックやけいれん等の重篤な有害事象に対応して応急治療ができるように，救急処置物品（血圧計，静脈路確保用品，輸液，エピネフリン・抗ヒスタミン薬・抗けいれん薬・副腎皮質ステロイド薬等の薬液，喉頭鏡，気管チューブ，蘇生バック等）を準備しておく．接種後は 30 分の待機指示を行う.

文　献

1）サーバリックス®添付文書：2010 年 2 月作成（第 2 版）